

防災計画に資する火山情報の解析・評価、集約・情報提供対策【経済産業省】

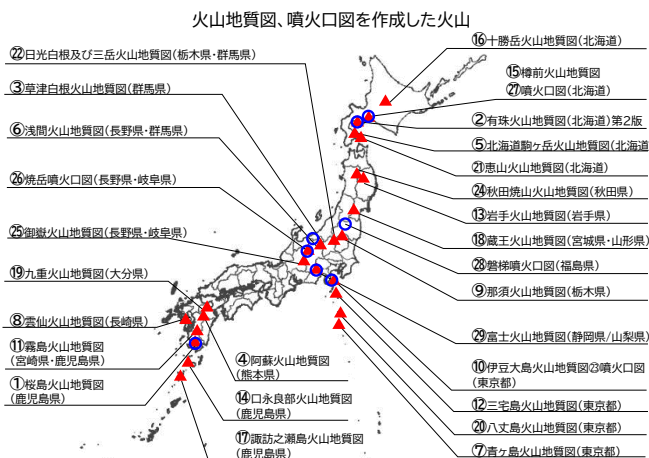
施策概要

過去の火山噴火の履歴・活動推移・規模を解析・評価し、その結果のデータベース化、情報提供を実施

効果

今後発生する可能性のある災害の種類や影響範囲(居住区域への降灰、下流域での泥流の発生等)の数値予測が精密化し、減災に貢献

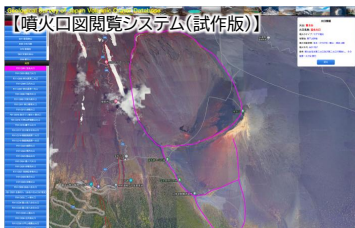
全国的な対策と効果



R6までに噴火履歴を解明した火山地質図、噴火口図の作成数

整備した地域	火山地質図、噴火口図の作成数	
	火山地質図	噴火口図
北海道地方	6	0
東北地方	3	0
関東中部地方	10	1
近畿地方	0	0
四国地方	0	0
九州地方	8	0
合計	27	1

監視・観測の充実等が必要な51火山を対象に、火山の調査を重点的に実施



火山の噴火可能性や噴火した場合の規模の評価に必要なデータの整備を促進する(上の画像は富士山の宝永火口と噴火様式等の属性情報を衛星画像に重ねて表示)

- 2018年度以降、7火山の火山地質図と2火山の噴火口図を整備し、2025年度までの目標値である30火山に対して31火山(103%の達成率)となった。
- 火山地質図の整備により、想定噴火口域や想定噴火規模が拡大し、避難対象地域の拡大等の防災施策に甚大な影響を与えた。
- R6年度は2火山の火山地質図を出版し、地元自治体の主宰する火山防災協議会に情報提供を実施するところ。
- 火口位置情報については位置精度を2万5千分の1縮尺地形図の精度で整備する作業を進め、防災対応機関の噴火被害想定シミュレーションなどで活用されることを企図している。

目標達成の見通し



※ 加速化・深化分は措置されていないが、国立研究開発法人産業技術総合研究所運営費交付金により対策を実施

整備事例

日光白根及び三岳火山を調査し、今後の噴火予測を精緻化する



国立研究開発法人 産業技術総合研究所

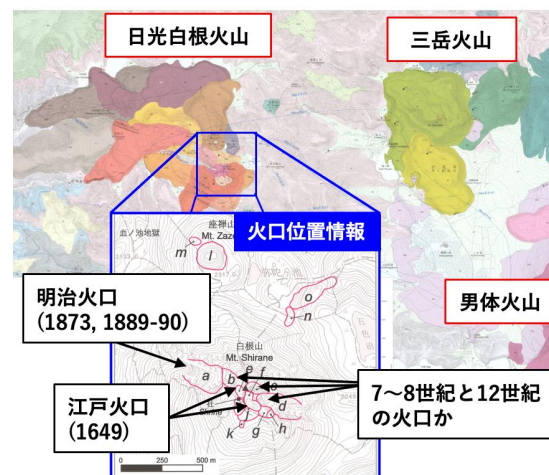


栃木県日光市及び群馬県利根郡片品村周辺



日光白根及び三岳火山地質図の整備

「日光白根及び三岳火山地質図」と詳細な火口位置の解析図



事業費

1.12億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)-億円)

事業の背景(地域の課題)

火山噴火は低頻度で多様性があるため、全ての可能性を網羅した対策を取るのには非効率的です。そのため、今後発生する可能性のある噴火事象をできるだけ予測し、噴火発生時に効率的な避難行動や対策を取れるように、過去の噴火における火口の位置や噴火規模等に関する情報を整備することが求められていました。

事業の内容

日光白根及び三岳火山地質図を整備し、最近活動した15個の火口位置と噴火様式等の情報を提供しました。



右図:山頂にて日光白根山の火山活動を説明。参加者約30名:県、市、村、警察、消防、森林管理署、観光協会

見込まれる効果

噴火が発生した火口の位置と、その噴火様式を詳細に明らかにしたことで、今後発生する可能性のある災害の種類や影響範囲(居住区域への降灰、下流域での泥流の発生等)の数値予測が精密化し、減災に役立つことが期待されます。また、地元自治体による火山防災協議会では、調査結果に基づき、防災避難計画を見直し中です。

(1) 人命・財産の被害最小化

(2) 交通・ライフラインの維持

2 インフラの老朽化対策

(1) 3 施策のデジタル化

(2) 災害関連情報の高度化

国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進